

おのこゝろ

2017年 11月号
No. 150 (H29-1)



和牛のオリンピック

全国和牛能力共進会

宮城県で開催

関連記事 P4

淡路家畜保健衛生所

〒656-0122 南あわじ市広田広田 1 2 2 7

TEL. (0799) 45-2411

FAX. (0799) 45-1129

Eメール awajikhe@pref.hyogo.lg.jp

HP <http://www3131.ec-net.jp/>

<巻頭言>



所長
清水 泰統

本年度から淡路家畜保健衛生所長となりました清水泰統（しみず やすのり）と申します。どうぞよろしく申し上げます。私は生まれも育ちも淡路島で、昭和59年に当時の洲本家畜保健衛生所に新任職員としてお世話になり、勤めて34年目に入りました。その間、転勤で島を出たり入ったりしていましたが、9年間を除いては淡路島に住んで島外へ通勤し、今回の淡路勤務は5回目で通算17年目となります。これまで、多くの先輩方から淡路島の畜産や農業全般についていろいろと教えていただき、また勉強もさせていただきました。私自身も年をとって、「育てていただいた淡路島に、何か恩返しをできることはないか」と考える今日このごろです。

さて、近年淡路島はいろいろと注目されることが多くなりました。新聞やテレビ、雑誌などでも淡路島の観光や食の話題が頻繁に紹介され、活力・魅力のある島の様子が全国に伝えられ、交流人口も増加してきています。その魅力の源は、海と山が隣接する豊かな自然、温暖な気候、そこで暮らす人々の活気、そしてなんとと言っても「美味しい食べ物（豊富な農産物・畜産物・水産物）」だと思っています。

当所は畜産に特化した事務所なので、やはり畜産物の話になりますが、島内では新鮮な牛乳や淡路ビーフ、また特色のある豚肉や卵、鶏肉の生産が行われ、個性的なブランドが展開され

ています。

当所の業務は衛生的な環境で健康な家畜を育て、安全・安心で高品質な畜産物の生産を推進することと、家畜伝染病の発生予防やまん延の防止に努めることで、職員一同日々努力しています。

中でも、近年特に重要となっているのが海外悪性伝染病の発生です。昨年は高病原性鳥インフルエンザが国内9道県12農場で発生するとともに、野鳥等では22都道府県の218事例、県内でも4カ所18事例でウイルスが確認されるなど、緊張が非常に高まりました。幸いにも県内の農場での発生はなく、これもひとえに養鶏農家の方々の防疫対策の徹底のおかげと感謝しております。もう一つ心配なのが口蹄疫です。口蹄疫は平成22年宮崎県での発生以後国内での発生はありませんが、中国や韓国、台湾、ロシアなど近隣国では発生が続いており、いつ国内に侵入してもおかしくない状況にあります。

畜産農家が密集している淡路島において、このような伝染病が発生した場合にはほとんどの地域が影響を受け、その被害は莫大なものになると考えられます。

伝染病の侵入防止には、畜産農家の皆様の日頃の衛生管理が重要となりますので、決して油断することなく今後も引き続き飼養衛生管理基準の遵守を心がけていただくようお願いします。

最近の家畜保健衛生所は伝染病の検査や摘発、飼養衛生管理基準の遵守指導など、イメージはあまり良くないかもしれませんが、職員一同、淡路島の畜産のより一層の振興のために、また「家畜衛生の良き相談窓口」となれるよう努力して参りますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

＜ 家畜衛生情報 ＞

ピートンウイルスによる牛異常産の発生

病性鑑定課 大田 康之

ピートンウイルス (PEAV) は1999年に長崎県で初めて分離されたウイルスです。アカバネ病ウイルスやアイノウイルスと同属のウイルスで、ヌカカによって媒介されます。妊娠牛に感染した場合、母牛に外見上の異常はありませんが、胎盤を介してウイルスが胎仔に感染し、流産や体型異常、神経症状等の異常産を引き起こします。

九州・沖縄地方ではPEAVの関与を疑う異常産が散発的に発生し、PEAVの浸潤調査では中国地方など本州でも広がっており被害の拡大が危惧されていましたが、これまで本県での発生はありませんでした。しかし本年3月下旬に体型異常の死産胎仔の病性鑑定を実施したところ、PEAVの関与が疑われる異常産がありました。

【病性鑑定概要】

母牛は4産目の黒毛和種で毎年、異常産3種混合ワクチンを接種していました。妊娠期間は285日でしたが難産であったため、診療獣医師が分娩介助したところ、体重が約13kgと極めて小さい体型異常の死産胎仔が娩出されました(図)。解剖したところ、頸部は捻転、脊椎がS字状に湾曲、小脳は小さく、脊髄が細く、低形成になっていました。この胎仔と母牛を調べたところPEAV抗体の上昇がみられ、PEAVに感染していたことが判明しました。しかしウイルス分離は陰性でした。これはウイルス感染がずいぶん前でウイルスがすでに消失しており、あらたな感染源となる危険性はありませんでした。

【PEAVの流行】

アルボウイルスの発生動向を調べるために管内に配置しているおとり牛の血液を用いて管内

でのPEAVの流行を調査したところ、11月に洲本市、淡路市が陽転しました。さらに南あわじ市での流行を確認するために、解剖を実施した牛の血液を用いて検査をしたところ1頭で陽性となり、島内3市で感染が確認されました。ウイルスは秋頃に淡路島内に侵入したと考えられました。

【予 防】

PEAVを予防するために、これまでのアカバネ病、アイノウイルス感染症などのワクチンにPEAVを追加した牛異常産4種混合ワクチンを接種する必要があります。このワクチンは不活化ワクチンであるため、これまでの異常産3種混合ワクチンと同様に初産牛にはワクチンの2回接種が必要です。淡路島内では今回のPEAVの流行を受けて、今春からこの牛異常産4種混合ワクチンに変更し、接種がはじまっています。異常産は子牛の損失だけでなく、母牛も難産となる可能性があります。貴重な繁殖母牛を守り、経営を安定させるためにもワクチン接種は効果的ですので、接種もれのないように、よろしくお願いいたします。



図 体型異常 13kg 胎齢285日

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）

衛生課 船曳 智也

1 PRRS の歴史と損害

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）は、1980年代後半から1990年代初頭にかけて北米、欧州で発生し、ヘコヘコ病、豚のミステリー病や青耳病などと呼ばれ、かつては原因不明の疾病とされていました。1991年にオランダで初めて原因ウイルス（PRRSV）が特定され、現在の PRRS の呼び方に統一されました。日本にも同時期に PRRSV が侵入しています。

PRRSV の株には北米型と欧米型があり、日本では、北米型が主とされています。国内の養豚場における浸潤率は80%と試算されています。

PRRS によるアメリカの年間損害額は645億円、日本では280億円と試算されており、世界の養豚業界に多大な損害を与えています。

2 PRRS の症状

PRRS はその名の通り、繁殖障害と呼吸器病を起こします。繁殖障害では妊娠後期の異常産（流产・死産）がまず挙げられます。この異常産は、産子全てが必ずしも異常であるわけではなく、正常な子～死亡した子、様々な大きさの子などが混在して生まれることがあります（写真）。



（出典）家畜疾病総合情報システム

また、不規則な発情回帰などによる受胎率の低下や泌乳停止による子豚の死亡率が上昇がみられます。急性の場合、母豚は神経症状を呈したり、10%以下の確率で死亡します。繁殖障害に対

する治療法はありません。

呼吸器病は子豚が発症しやすく、マイコプラズマや連鎖球菌など他の病原体と複合感染することも多く、症状が悪化します。特に若齢であるほど死亡率が高くなります。

3 PRRS の対策

本病を予防するには、農場外からのウイルス侵入防止が重要です。ウイルス陰性の繁殖候補豚を導入し、少なくとも60～90日は隔離飼育します。併せて、肉豚出荷、飼料搬入や糞尿堆肥の搬出等に係わる車両の消毒、外来者の入場制限、野生動物や衛生昆虫への対応も必要です。

ウイルス陽性農場では、母豚群でウイルスを循環させないことが重要で、ワクチンや母豚群の馴致による対策をとります。しかし、PRRSV は豚体内で突然変異を繰り返し、同一農場においても多くの種類の株が存在することがあります。ワクチン等で一度免疫を獲得した豚であっても、違う種類の株が感染した場合、発症を免れることはできません。また、感染が連鎖し群レベルで持続感染が生じやすいことが知られています。このことが、ワクチンのみでの対応を難しくしています。

母豚群の馴致とは、繁殖候補豚を農場に存在する既存の本病ウイルス株に意図的に感染させることで、強制的に免疫を賦与することです。安定した免疫をもつ母豚からウイルスフリーな離乳子豚を作出し、農場内でのウイルス蔓延を阻止することができます。母豚群の免疫が安定しているかどうかは、抗体価にバラツキがなく低い値で一定となることで確認できます。馴致前には、健康被害の大きい疾病が蔓延していないことを確認し、馴致期間はできれば90日を確

保します。これは、感染後のウイルス排出期間が最長 90 日とされているためです。馴致には抗体価の検査や専門的な知識が必要ですので、農場の管理獣医師や取引飼料会社等の獣医師や専門家の指導の下に実施して下さい。

＜こちら広田広田1227＞

第 11 回全共が行われたのは、・・・

さる平成 29 年 9 月 7～11 日に第 11 回全国和牛能力共進会の最終比較審査、いわゆる 5 年に 1 度の全共が、宮城県仙台市の夢メッセみやぎで開催されました。共進会は連日天候に恵まれ、週末は T シャツで十分なくらいの暑さでした。



また会場は、仙台駅から電車で 30 分、そこからシャトルバスで 15 分くらいのところでしたが、一般消費者も非常に多いと感じました。



種牛の部の審査会場は、雨風の心配がいない、7,500㎡、天井高さ 17～25m の全天候型の施設

また本病ウイルスは乾燥に弱いため、オールアウト後の豚舎の洗浄・消毒後の乾燥は重要です。加えて適正なピッグフロー等、総合的な飼養衛生管理遵守の徹底をお願いします。

の 2/3 を使って実施されました。

各県のブースでは、ブランド牛の紹介や観光の PR が行なわれ、当所職員も但馬牛や兵庫の観光の PR 活動のお手伝いをしました。

鳥インフルエンザの発生に備えた防疫演習

渡り鳥が飛来する季節に備え、平成 29 年 9 月 29 日に三木防災センターにおいて、本県、(公社) 兵庫県畜産協会の主催のもと、兵庫県養鶏協会協賛によって標記の演習が開催されました。本演習では県組織や県下市町を中心に、鳥インフルエンザの発生時に作業にあたる組織に広く参加を呼びかけ、万一発生した場合の対応について協議するとともに実地訓練を行いました。

第 1 部：初動対応についての机上訓練

50 万羽飼養の採卵鶏農家で鳥インフルエンザの発生があったことを想定し、動員者の確保、消毒ポイントの設置、資材の手配、殺処分、焼却などについてタイムスケジュールに基づいて実際に担当する部署の者が説明しました。

第 2 部：模擬鶏舎を用いた実地訓練

実際の発生時、動員予定者は作業前に健康調査を受け、自身への感染を防ぐための装備を身につけた後、作業を行わなければなりません。そのため、この実地訓練では健康福祉事務所の

保健師が健康調査を行うとともに、家保職員の指導のもとに作業時の装備を身につけ、模擬鶏を用いた殺処分の訓練を行いました。

参加者の中には、眼鏡の曇りや防護服の脱ぎ方に悩まされる方も見受けられ、実際の発生時に留意すべき点が散見されました。



模擬鶏を用いた殺処分訓練

養鶏場では、鳥インフルエンザの発生を防ぐため、日々、飼養衛生管理基準の遵守に努めて頂いています。万が一発生してしまったときに備えて、初動防疫が円滑に進むよう今回の演習を活かしていきます。

動物愛護週間関連行事の開催

淡路獣医師会では、今年度も動物の愛護と適正な飼養に関する普及啓発の各種行事を実施しました。

32回目となる動物愛護絵画コンクールでは、小学生を対象とした淡路ファームパークでの写生大会に79名の参加があり、島内小学校からの応募作品と合せ210点の出品がありました。コアラなどの展示動物や身近な犬猫といった愛玩動物に加え、淡路島らしい乳牛、和牛の共進会を描いた絵画は、自慢の愛牛を心を込めて飼育されている様子が伝わります。

10月1日(日)には、40名の絵画コンクール入



優秀賞 洲本第二小 4年生の作品



優秀賞 松帆小 5年生の作品

賞者と長寿犬の優良飼養者6名の表彰式が三原ショッピングプラザパルティで行われました。当日は動物愛護フェアも開催され、動物愛護センター淡路支所による犬のしつけ方教室、譲渡犬猫の写真展や動物病院の獣医師によるペットの健康相談、動物クイズラリー等が行われました。

また、今年は小学生への動物愛護教育に対する支援として、淡路獣医師会から島内全小学校42校と特別支援学校に動物愛護啓発の図書の寄贈があり、3市教育委員会への贈呈式も行なわれました。

寄贈図書は、日本獣医師会推薦の「夢は牛のお医者さん」という共済診療所の獣医師となった少女の物語(絵本と文庫)で、ペットではなく家畜を通じていのちと向き合う姿が描かれています。

多彩な行事を通じて、動物愛護についての理解と関心を深める秋の一日となりました。

新任職員紹介

はじめまして。本年度より淡路家畜保健衛生所に勤務しております梶河紗代（かじかわ さよ）です。

出身大学は北海道大学で、公衆衛生学教室に所属し、人と動物の両方に感染する人獣共通感染症について研究していました。その中で家畜の感染症への関心が高まっていき、兵庫県の職員を志すに至りました。

現在は防疫課に配属され、家畜伝染病予防法に係る予防接種や家畜伝染病の検査、聞き取り調査などをはじめ様々なことを所内、県組織、関係団体の方々に教えて頂きながら日々仕事に取り組んでいます。

一方、淡路島と言えば、淡路島牛丼、淡路島の生しらす丼、淡路島バーガーなどの多くのグルメがありますよね。これらを制覇すべく日々



努力しているところです。また、夏には県職連の一員として、島祭りにも参加し、お囃子に乗せ軽やかに舞い踊りました。

兵庫県でも有数の畜産地域であるとともに、心優しい畜主・関係者の多い淡路島で働くことができ、充実した毎日を送っております。これから多くの経験を積み、畜産業の発展に寄与できるように努力していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

平成29年度職員の配置状況

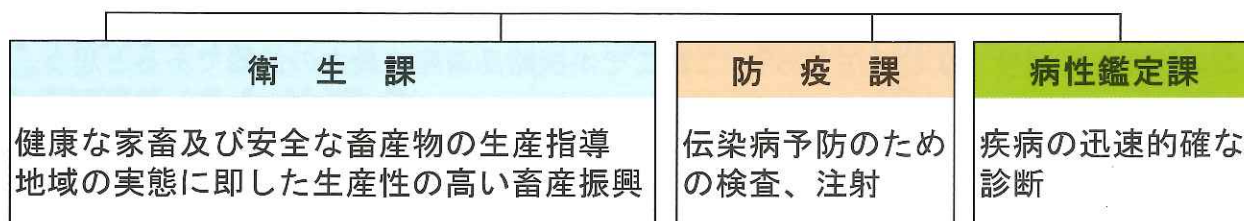
所長 清水泰統

副所長 橘田達慶

衛生課		防疫課		病性鑑定課		畜産専門員
課長	副所長兼務	課長	嶋田 雅之	課長	富田 啓介	宮奥 正一
担当課長補佐	小嶋 睦	担当課長補佐	中山 卓也	担当課長補佐	丸尾 喜之	北野 和博
課長補佐	山口 悦司	職員	寺一未奈子	課長補佐	大田 康之	岡田 啓延
課長補佐	西村さち代	職員	梶河 紗代			
職員	船曳 智也					
事務嘱託	西村 彩香					

安全対策課がなくなり、副所長が衛生課長兼務となりました。職員一同、淡路の畜産振興のため頑張っています。

元気な畜産、経営の基本は衛生対策



★ 県内の家畜伝染性疾病発生状況 (H28, H29) ★

区分	病名	畜種	平成28年1月～12月				平成29年1月～8月			
			県内		管内		県内		管内	
			戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数
法定伝染病	ブルセラ病	牛								
	結核病	牛								
	ヨーネ病	牛	1	1			1	1		
		山羊								
	炭疽	牛								
	伝達性海綿状脳症	牛								
	高病原性鳥インフルエンザ	鶏								
腐蛆病	みつばち									
届出伝染病	牛ウイルス性下痢・粘膜病	牛	6	7	3	3	1	1	1	1
	牛伝染性鼻気管炎	牛								
	牛白血病	牛	143	153	62	62	79	87	25	28
	アカバネ病	牛								
	牛丘疹性口炎	牛	1	1						
	イバラキ病	牛								
	アイノウイルス感染症	牛								
	破傷風	牛								
		馬								
	レプトスピラ症	犬	3	3			3	3		
	豚丹毒	豚	5	7			3	18		
	鶏痘	鶏	2	15						
	伝染性気管支炎	鶏					2	25		
	サルモネラ症	あひる	1	4						
アカリダニ症	みつばち					3	4			

注:未発生の疾病は一部削除

徒然なるまま・・・

1987年4月に獣医師となり社会人としての第一歩をここ淡路島に踏み出した。

昭和の時代から平成の時代へと移り変わる激動の時期を淡路島で過ごした。わずか4年ではあったが、就職し、結婚し、子供ができ・・・私にとっては時代の流れ以上に、思い出深く、決して忘れることができない私の人生が凝縮された4年間であった。

2017年4月、キリのいい30年の時を経て、再び淡路島に着任した。時代は大きく変わっていた。何もかもが様変わりしている。そんな中、昔と変わっていないものを見るとホッとしたりする。4月1日、着任早々の畜産関係者歓送迎会は松葉寿司だった。初めてのボーナスを貰った時にはここに来た。子供ができてからの祝い事でもよくお世話になった。10月1日、動物愛護絵画コンクール表彰式はパーティだった。週末の買い物は、子供の手を引きながらの三原のパーティか洲本のジャスコが定番だった。懐かしい。

変わっていないものと言え、これを忘れてはならない。畜産関係者相互の「絆」である。畜産の振興を推進するには、農家、団体、市町、県などすべての畜産関係者が協力し合って汗を流すことが不可欠である。他の地域では希薄になりつつある「絆」が、ここ淡路島には今もなお健在である。これこそが淡路島畜産の最大の武器であると思う。

30年の節目に再び淡路島に着任できたことを機に、脈々と受け継がれている「絆」を大切に守りながら、淡路島の畜産振興に貢献したいと思う。また、巻頭言で所長が述べている「家畜衛生の良き相談窓口」となるべく粉骨砕身努めたい。 TK